



IM アドレススキームの設定

- [IM アドレススキーム: \(1 ページ\)](#)
- [IM アドレススキーム: \(3 ページ\)](#)
- [IM アドレススキームのタスクフローの設定 \(3 ページ\)](#)

IM アドレススキーム:

IM and Presence Service は、次の 2 種類の IM アドレス指定スキームをサポートしています。

- *UserID@Default_Domain* が、IM and Presence Service をインストールした場合の、デフォルトの IM アドレススキームです。
- Directory URI IM アドレススキームは、複数のドメイン、ユーザのメールアドレスの調整、および Microsoft SIP URI の調整をサポートしています。

すべての IM and Presence Service クラスタ全体で、同じ IM アドレススキームを使用する必要があります。

User@Default_Domain を使用した IM アドレス

UserID@Default_Domain が、IM and Presence Service をインストールした場合の、デフォルトの IM アドレススキームです。

UserID @ Default_Domain の IM アドレススキームを使用すると、すべての IM アドレスが単一のデフォルト IM ドメインの一部となります。デフォルトドメイン値は、すべてのクラスタ全体で一貫している必要があります。IM アドレスは IM and Presence のデフォルトドメインの一部であるため、複数ドメインはサポートされません。

UserID は、フリーフォームまたは LDAP から同期することができます。次のフィールドがサポートされます。

- sAMAccountName
- ユーザプリンシパル名 (UPN)
- 電子メールアドレス

- 従業員番号
- 電話番号

UserID を Cisco Unified Communications Manager の LDAP フィールドにマップする場合、その LDAP マッピングはすべてのクラスタ全体で一貫している必要があります。

ユーザ ID は電子メールアドレスにマッピング可能ですが、それが IM URI が電子メールアドレスと同じであるという意味ではありません。代わりに `<email-address>@Default_Domain` となります。たとえば、`amckenzie@example.com @sales-example.com` です。選択した設定をマッピングする Active Directory (AD) は、IM and Presence サービス クラスタ内のすべてのユーザに対してグローバルに適用されます。個々のユーザに対して異なるマッピングを設定することはできません。

ディレクトリ URI を使用した IM アドレス

ディレクトリ URI のアドレススキームを使用して、ユーザの IM アドレスを Cisco Unified Communications Manager のディレクトリ URI に合わせます。

ディレクトリ URI の IM アドレススキームには、次の IM アドレス指定機能があります。

- 複数ドメインのサポート。IM アドレスは、1 つの IM and Presence Service ドメインだけを使用する必要はありません。
- ユーザのメールアドレスの調整。ユーザのメールアドレスと合わせるように Cisco Unified Communications Manager のディレクトリ URI を設定することで、メール、IM、音声、および動画の通信にユーザの ID を一貫して指定できるようになります。
- Microsoft SIP URI の調整。Microsoft SIP URI と合わせるように Cisco Unified Communications Manager のディレクトリ URI を設定することで、Microsoft OCS/Lync から IM and Presence Service への移行時に、ユーザの ID を確実に維持できるようになります。

IM アドレススキームとしてディレクトリ URI を使用するようノードを設定する場合は、ディレクトリ URI をサポートするクライアントのみを展開することを推奨します。ディレクトリ URI をサポートしないクライアントは、ディレクトリ URI IM アドレススキームが有効になっている場合は動作しません。ディレクトリ URI をサポートしないクライアントが展開されている場合は、`UserID@Default_Domain` IM アドレススキームを使用し、ディレクトリ URI IM アドレススキームは使用しないでください。

ディレクトリ URI IM アドレス設定はグローバルであり、クラスタ内のすべてのユーザに適用されます。クラスタ内の個々のユーザに対して異なるディレクトリ URI IM アドレスを設定できません。

外部 LDAP ディレクトリからのディレクトリ URI のプロビジョニングの詳細については、[LDAP ディレクトリの設定](#)を参照してください。

複数の IM ドメイン

IM and Presence Service は、複数の IM アドレス ドメイン全体で IM アドレッシングをサポートし、システム内のすべてのドメインを自動的にリストします。ドメインの追加、編集、または削除を行うことができます。IM ドメインの設定の詳細は、[ドメインの設定の概要](#)を参照してください。

Cisco Expressway を相互運用している場合は、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/expressway-series/products-maintenance-guides-list.html>の *Cisco Expressway* 管理ガイドを参照してください。

IM アドレススキーム:

IM and Presence Service のデフォルト ドメインと、使用する IM アドレススキームは、IM and Presence Service クラスタ全体で一貫している必要があります。はじめに、[IM and Presence Service のデフォルト ドメインの設定](#)。

設定する IM アドレススキームはすべてのユーザ JID に影響を与え、別の設定を持つ可能性があるクラスタ間での通信を中断せずに段階的に実行することはできません。

展開したクライアントが IM アドレスとしてディレクトリ URI をサポートしない場合は、管理者がディレクトリ URI IM アドレススキームを無効にする必要があります。

IM アドレススキームのタスクフローの設定

IM アドレススキームを設定するには、以下の順序でこのタスクを完了してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
Step 1	ユーザプロビジョニングの確認 (4 ページ)	エンドユーザが適切にプロビジョニングされていること、および重複しているユーザまたは無効なユーザがないことを確認します。
Step 2	ハイアベイラビリティを無効にする (5 ページ)	プレゼンス冗長グループのハイアベイラビリティは、一時的に無効にする必要があります。IM アドレススキームを設定するには、一時的にサービスを停止する必要があります。ハイアベイラビリティが有効のままサービスを停止すると、システムフェールオーバーが発生します。
Step 3	サービスの停止 (Stop Services) (6 ページ)	IM アドレッシングスキームの設定を更新する前に、不可欠な IM and Presence サー

	コマンドまたはアクション	目的
		ビスを停止します。指定された順序でサービスを停止することを確認します。
Step 4	IM アドレススキームの割り当て (7 ページ)	この手順を使用して、新しいドメインと IM アドレススキームを設定するか、既存のドメインとアドレススキームを更新します。
Step 5	サービスの再起動 (8 ページ)	IM アドレッシングスキームが設定されたら、サービスを再起動します。これは、ユーザアドレス情報を更新したり新しいユーザをプロビジョニングしたりする前に実行する必要があります。サービスの起動は、必ず所定の順序で行ってください。
Step 6	高可用性の有効化 (9 ページ)	IM アドレススキームを設定し、IM and Presence サービスを再起動した後で、プレゼンス冗長グループのハイアベイラビリティを有効にすることができます。ハイアベイラビリティを有効化する前に、すべてのサービスが IM and Presence データベースパブリッシュノードおよびサブスクライバノードで稼働していなければなりません。
Step 7	IM アドレススキームとしてディレクトリ URI を選択した場合: <ul style="list-style-type: none"> ディレクトリ URI への LDAP ソースの割り当て (10 ページ) ディレクトリ URI の手動割り当て (11 ページ) 	オプション。外部 LDAP ディレクトリからユーザを同期している場合は、ディレクトリの URI 値の [LDAP ソース] フィールドを設定します。 LDAP 以外のユーザの場合は、ディレクトリ URI を手動でプロビジョニングする必要があります。これは、ユーザ単位で行うか、一括管理ツールを使用して行うことができます。

ユーザプロビジョニングの確認

アドレススキームを設定する前に、この手順を使用して、エンドユーザが適切にプロビジョニングされていることを確認してください。

手順

-
- Step 1** Cisco Unified CM IM and Presence Administration から、**診断 > システムのトラブルシューティング** を選択します。
システムのトラブルシューティングが実行されます。
- Step 2** **ユーザのトラブルシューティング**のセクションで、エンドユーザが適切にプロビジョニングされていること、また、重複しているユーザまたは無効なユーザがないことを確認します。
-

次のタスク

[ハイアベイラビリティを無効にする \(5 ページ\)](#)

ハイアベイラビリティを無効にする

各プレゼンス冗長グループに対するハイアベイラビリティを無効にします。アドレススキームを編集するには、サービスを一時的に停止する必要があります。ハイアベイラビリティが有効になったサービスを停止すると、システムフェールオーバーが発生します。



-
- (注) [プレゼンス冗長グループの詳細]ページには、クラスタで高可用性が無効になっている場合でも、すべてのアクティブな JSM セッションが表示されます。
-

始める前に

各プレゼンス冗長グループの各クラスタ ノードのアクティブ ユーザ数を記録します。この情報は、Cisco Unified CM IM and Presence の (**System > Presence Topology**) ウィンドウに表示されます。この番号は、後にハイアベイラビリティを再度有効にする際に必要となります。

手順

-
- Step 1** Cisco Unified CM Administration のユーザ インターフェイスから、[システム (System)] > [プレゼンス冗長グループ (Presence Redundancy Groups)] を選択します。
- Step 2** 検索をクリックして、グループを選択します。
- Step 3** [プレゼンス冗長グループの設定 (Presence Redundancy Group Configuration)] ウィンドウで、[ハイアベイラビリティを有効にする (Enable High Availability)] チェックボックスをオフにします。
- Step 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- Step 5** 各プレゼンス冗長グループに対して、この手順を繰り返します。

- Step 6** 完了後、さらに変更を行う前に、新しい HA 設定がクラスタ全体にわたって同期されるまで、少なくとも 2 分待機します。
-

次のタスク

[サービスの停止 \(Stop Services\) \(6 ページ\)](#)

サービスの停止 (Stop Services)

IM アドレッシングスキームの設定を更新する前に、不可欠な IM and Presence サービスを停止します。指定された順序でサービスを停止することを確認します。

始める前に

[ハイ アベイラビリティを無効にする \(5 ページ\)](#)

手順

- Step 1** **Cisco Unified IM and Presence** サービスアビリティで、**ツール > コントロールセンター - ネットワーク サービス** を選択します。
- Step 2** サービスを選択し、**[停止 (Stop)]** ボタンをクリックして、次の IM and Presence サービスをこの順序で停止します。
- a) **Cisco Sync Agent**
 - b) **Cisco Client Profile Agent**
- Step 3** 両方のサービスが停止したら、**[Tools] [> Control Center-Feature services]** を選択し、次のサービスをこの順序で停止します。
- a) **Cisco Presence Engine**
 - b) **Cisco SIP Proxy**
- Step 4** 両方のサービスが停止したら、**[Tools] [> Control Center-Feature services]** を選択し、次のサービスを停止します。
- **Cisco XCP Router**
- (注) XCP ルータサービスを停止すると、関連するすべての XCP 機能サービスが自動的に停止します。
-

次のタスク

[IM アドレススキームの割り当て \(7 ページ\)](#)

IM アドレススキームの割り当て

この手順を使用して、新しいドメインと IM アドレススキームを設定するか、既存のドメインとアドレススキームを更新します。



(注) 設定する IM アドレススキームは、必ずすべてのクラスタ間で一致するようにしてください。

始める前に

[サービスの停止 \(Stop Services\)](#) (6 ページ)

手順

-
- Step 1** Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、**プレゼンス > 設定 > 詳細設定**を選択します。
- Step 2** 新しいデフォルトドメインを割り当てるには、[**Default domain**] チェックボックスをオンにし、テキストボックスに新しいドメインを入力します。
- Step 3** アドレススキームを変更するには、[**IM アドレススキーム (IM Address scheme)**] チェックボックスをオンにして、ドロップダウンリストボックスから次のいずれかのオプションを選択します。
- **UserID@[Default_Domain]**—: 各 IM ユーザアドレスは、UserID からデフォルトドメインと共に取得されます。これがデフォルト設定です。
 - **ディレクトリ URI**—: 各 IM ユーザアドレスは、Cisco Unified Communications Manager でそのユーザに関して設定されているディレクトリ URI と一致します。
- (注) このオプションを選択すると、展開されたすべてのクライアントが、IM アドレスとしてディレクトリ URI をサポートし、EDI ベースまたは UDS ベースのディレクトリ統合に対応している必要があります。Jabber との UDS ベースの統合を行うには、Jabber のリリース 10.6 以降を実行している必要があります。
- Step 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステータス領域の更新進行状況を監視できます。
- IM アドレススキームとしてディレクトリ URI を選択する場合、展開クライアントが複数ドメインをサポートできることを確認するプロンプトが表示される場合があります。続行するには [OK (OK)] をクリックします。または [取消 (Cancel)] をクリックします。
- ユーザが [ディレクトリ URI (Directory URI)] 設定を無効にしている場合は、ダイアログボックスが表示されます。続行するには、[OK (OK)] をクリックし、または [取消 (Cancel)] をクリックします。次に、IM アドレススキームを再設定する前にユーザ設定をします。
- システムアップデートは完了まで最長で 1 時間かかる場合があります。変更を再適用するには、[再試行 (Re-try)] をクリックします。または [取消 (Cancel)] をクリックします。
-

次のタスク

アドレス指定スキームとして `user@default_domain` を設定し、ディレクトリ URI を使用していない場合は、[サービスの再起動（8 ページ）](#)に進みます。

アドレススキームとしてディレクトリ URI を設定した場合は、以下のオプションのいずれかを選択します。

- [ディレクトリ URI への LDAP ソースの割り当て（10 ページ）](#)
- [ディレクトリ URI の手動割り当て（11 ページ）](#)

IM アドレスの例

IM and Presence Service で使用可能な IM アドレス オプションの例。

IM and Presence Service デフォルト ドメイン: cisco.com	
ユーザ:	: 山田太郎
ユーザ ID:	ty12345
メール ID:	tyamada@cisco-sales.com
SIPURI:	: taro.yamada@webex.com

IM アドレス形式	ディレクトリ URI マッピング	IM アドレス
<userid>@<domain>	該当なし	js12345@cisco.com
[ディレクトリ URI (Directory URI)]	mailid	jsmith@cisco-sales.com
[ディレクトリ URI (Directory URI)]	msRTCSIP-PrimaryUserAddress	john.smith@webex.com

サービスの再起動

IM アドレッシングスキームが設定されたら、サービスを再起動します。これは、ユーザアドレス情報を更新したり新しいユーザをプロビジョニングしたりする前に実行する必要があります。サービスの起動は、必ず所定の順序で行ってください。

始める前に

- [IM アドレススキームの割り当て（7 ページ）](#)
- アドレススキームとしてディレクトリ URI を設定した場合は、サービスを再起動する前に以下のオプションのいずれかを完遂します。
 - [ディレクトリ URI への LDAP ソースの割り当て（10 ページ）](#)
 - [ディレクトリ URI の手動割り当て（11 ページ）](#)

手順

-
- Step 1** Cisco Unified IM and Presence サービスアビリティで、ツール > コントロールセンター – ネットワーク サービスを選択します。
- Step 2** サービスを選択し、[起動 (Start)] ボタンをクリックして、次のサービスを起動します。
- Cisco XCP Router
- Step 3** サービスが起動したら、[Tools] [> Control Center-Feature Services] を選択し、次のサービスをこの順序で開始します。
- a) Cisco SIP Proxy
 - b) Cisco Presence Engine
- Step 4** 次の手順に進む前に、Cisco Presence Engine サービスがすべてのノードで実行されていることを確認します。
- Step 5** [Tools] > [Control Center – Network Services] を選択し、次のサービスをこの順序で開始します。
- a) Cisco Client Profile Agent
 - b) Cisco Sync Agent
-

次のタスク

[高可用性の有効化 \(9 ページ\)](#)

高可用性の有効化

IM アドレススキームを設定し、サービスを再起動した後に、クラスタ内の各プレゼンス冗長グループのハイアベイラビリティを再度有効にするには、以下の手順に従います。

始める前に

ハイアベイラビリティを有効化する前に、すべてのサービスが IM and Presence データベースパブリッシャノードおよびサブスクライバノードで稼働していなければなりません。サービスが再起動してから30分以内の場合は、ハイアベイラビリティを有効にする前に Cisco Jabber セッションが再作成されたことを確認します。十分な時間を確保しない場合、セッションが作成されていない Jabber クライアントでプレゼンスは機能しません。

Cisco Jabber セッションの数を取得するには、すべてのクラスタノードで `show perf query counter Cisco Presence Engine Active JsmSessions` CLI コマンドを実行します。アクティブセッションの数は、ハイアベイラビリティを無効にした際に記録したユーザ数と一致するはずですが、

手順

-
- Step 1** [Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] から、[ツール (Tools)] > [コントロールセンタ-ネットワークサービス (Control Center - Network Services)] を選択します。
- Step 2** [サーバ (Server)] リストから、サービスを再アクティブ化するノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- Step 3** **IM and Presence Services** のエリアで、以下のサービスを選択します。
- Cisco Client Profile Agent
 - Cisco Sync Agent
 - Cisco XCP Router
- Step 4** [再起動 (Restart)] をクリックします。
- Step 5** [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストから [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- Step 6** **IM and Presence Services** のエリアで、以下のサービスを選択します。
- Cisco SIP Proxy
 - Cisco Presence Engine
- Step 7** [保存 (Save)] をクリックします。
-

ディレクトリ URI への LDAP ソースの割り当て

外部 LDAP ディレクトリからユーザを同期している場合は、この手順を使用して、ディレクトリ URI を割り当てに使用する外部 LDAP ディレクトリのソース フィールドを割り当てることができます。LDAP ディレクトリの同期が行われると、設定したフィールドの値からディレクトリ URI が割り当てられます。



- (注) 最初の LDAP 同期がすでに行われていた場合、Cisco Unified Communications Manager では、LDAP ディレクトリの既存の設定に新しい設定を追加することはできません。外部 LDAP ディレクトリに追加された新しいアイテムを同期することはできても、Cisco Unified Communications Manager で LDAP 設定を編集することはできません。すでに LDAP ディレクトリを同期していた場合：
- ディレクトリ URI をユーザに割り当てするには、バルク管理ツールを使用します。詳細については、『*Bulk Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
 - ユーザにディレクトリ URI を手動で割り当てます。
-

始める前に

[IM アドレススキームの割り当て \(7 ページ\)](#)

手順

-
- Step 1** Cisco Unified CM 管理から、システム > LDAP > LDAP ディレクトリを選択します。
- Step 2** ディレクトリ URI のドロップダウン リストから、次のいずれかのオプションを選択します。
- **メール:** ユーザのメールアドレスと合わせてディレクトリ URI を設定することで、メール、IM、音声、および動画の通信にユーザの ID を一貫して指定できるようになります。
 - **msRTCSIP-PrimaryUserAddress:** ディレクトリ URI を Microsoft OCS/Lync SIP URI (msRTCSIP-PrimaryUserAddress) にマップします。
- (注) ディレクトリ URI は、LDAP 同期が行われるまでプロビジョニングされません。LDAP ディレクトリ同期の設定の詳細は、[LDAP ディレクトリの設定](#)を参照してください。
-

次のタスク

[サービスの再起動 \(8 ページ\)](#)

ディレクトリ URI の手動割り当て

LDAP を使用していない場合は、この手順を使用して、ユーザ毎にディレクトリ URI を手動で入力することができます。



- (注) また、一括管理ツールを使用して、CSV ファイル経由で、ディレクトリ URI を多数のエンドユーザにプロビジョニングすることもできます。一括管理の使用の詳細は、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html> の *Cisco Unified Communications Manager* 一括管理ガイドを参照してください。

LDAP ディレクトリが未同期の場合は、LDAP ディレクトリ同期を使用してユーザのディレクトリ URI をプロビジョニングすることができます。

始める前に

[IM アドレススキームの割り当て \(7 ページ\)](#)

手順

-
- Step 1** Cisco Unified CM 管理で、ユーザ管理 > エンドユーザを選択します。

- Step 2** 適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
 - Step 3** 設定するエンドユーザを選択します。
 - Step 4** ユーザ情報 エリアで、**ディレクトリ URI** フィールドにディレクトリ URI を入力します。
 - Step 5** [保存 (Save)] をクリックします。
-

次のタスク

[サービスの再起動 \(8 ページ\)](#)

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。